

## 令和4年度 金光八尾中学校・高等学校 学校評価報告書

### 1. めざす学校像

本校では開校以来、『人はみな神の氏子である』という金光教祖の広大かつ自然な教えに基づき、すべての人に与えられている個性を生かす教育の場を願う」という建学の精神に基づき、教育方針として「確かな学力」と「豊かな情操」を、教育理念として「人間平等の教育」「個性尊重の教育」「心を育てる教育」をそれぞれ掲げ、将来を生きていく力と、真に社会に役立つ人間の育成に努めている。

1. 人間平等の教育＝人間尊重・人間平等の精神を基に、豊かな情操を育むとともに確かな学力を育成する。
2. 個性尊重の教育＝個性は他の人との比較ではなく、その人の内面にある素晴らしいものこそが個性であるとして、一人ひとりが持つ個性、特性を最大限伸ばす。
3. 心を育てる教育＝人は、お互いが助け合い、支え合って生きていることを認識し、相手を思いやる心、感謝の気持ちをもって他と接することができる心を育てる。

### 2. 中期的目標

「確かな学力」と「豊かな情操」を教育方針に、「常に向上をめざし努力すること」、「人を思いやり物にも感謝すること」、「ものごとに素直に感動する心を持つこと」の三つを目標として掲げている。これらのことを基軸として、年度当初に示す学校経営方針に沿って各教職員が取り組んでいる。

#### (1) 学校運営

- ①生徒に達成感や充実感を与える工夫された授業・クラブ活動への取り組み
- ②学校の安全対策と配信システムのさらなる活用
- ③ICT教育推進部の司令塔に、全教職員のICT教育に必要なスキルアップを図る取り組み
- ④学園本部と密接な連携をとり、急速な教育環境の変化に迅速に対応できる組織の再構築
- ⑤生徒募集定員の確保

#### (2) 教育実践の充実

##### ①教科指導

- ・高校1年生から始まる観点別評価方法が生徒・保護者に納得・理解できる説明の準備
- ・R4年度から実施の高校1年生の新学習指導要領に伴う教育課程と講習の効果的な編成
- ・コロナ禍の中、ICT教育と対面授業を融合させたハイブリット型授業の工夫・改善
- ・英会話の運用力の向上と、今後の英語教育の進展を踏まえた取り組み

##### ②生徒指導

- ・コロナ禍でもできる挨拶運動の工夫・推進
- ・生徒一人ひとりに寄り添った学級指導
- ・新制服導入に伴い、制服の着こなしについての指導

③進路指導

- ・新しい入試制度に対応した進路指導。
- ・学校推薦型選抜等の活用
- ・退学の防止対策

④ICT教育の推進

- ・情報端末機器（iPad）を活用した授業実践
- ・統合システムなど、校内の情報化のための整備。
- ・ICTリテラシーの育成とセキュリティーの確保

⑤人権教育

- ・人権意識の醸成
- ・人権教育にかかる授業の工夫改善

⑥情操教育

- ・人間としての生き方や在り方を考える道徳教育の研究・実践
- ・宗教の時間を通して心豊かな人間の育成

⑦家庭との連携

- ・ホームページの充実、学校通信・中学通信等の発行
- ・保護者ニーズの把握と適切な対応

⑧広報・募集活動

- ・ホームページの刷新を契機として、学校の魅力や特色の見せ方の工夫・改善
- ・教職員一丸となった効果的な広報活動

(3) 意識改革と資質向上

- ・「生徒による授業アンケート」等の活用による授業力の向上
- ・教科会、各部会、学年会等の開催による情報の共有と意見交換
- ・学校経営への参画意識の醸成、企画力の育成

(4) 学校行事

- ・生徒会の自主活動の推進
- ・部活動の活性化

【自己評価の結果と分析・学校関係者評価委員会からの意見】

自己評価の結果と分析	学校関係者評価委員会からの意見
今年度もひき続き、新型コロナウイルス感染症対策の徹底と「生徒たちの学びを止めない」を基本に、可能な限り対面授業をおこなった。社会全体の感染状況のサイクル同様に学校も感染者数が増加し、オンライン授業（Zoom、ロイロノートなど）の配信、また、感染者、濃	(1) 新型コロナウイルス感染症に関わる学校の対応 学校より陽性者・濃厚接触者数のデータや、学年閉鎖などの対応。学校行事、オンライン授業とハイブリッド型授業の実施概要を説明。 委員からは学校の臨機な対応に一定の評価をいただ

<p>厚接触者等で登校できない生徒にはハイブリッド授業（教室で授業の様子を Zoom で配信）を行った。</p> <p>また、3 学期 1 月になり、教員も家庭内感染から陽性者、濃厚接触者が急増し対面授業が困難な学級・学年が増加し、授業の補充に困難が生じた。</p> <p>この 3 年間で、ICT 環境も充実し、ipad の導入 3 年目でもあり、教員、生徒の ICT のスキルもアップした。</p> <p>学校評価委員会での意見もあったように、学習の定着には、デジタルだけでは限界があるので、引き続き対面での授業を第 1 と考え、きめ細かい指導を行う。</p> <p>今年度から始まった高校の新学習指導要領、観点別評価の取り組みにはまだまだ課題がある。特に卒業規定、単位の認定に関わる評価については、教務内規の変更も含め改善の必要があり引き続き研究していく。また、丁寧に保護者・生徒に説明と理解してもらおう取り組みを行う。</p>	<p>いた。しかし、委員会開催日当日の卒業式における、マスクの着用非着用のバラツキを例に挙げられ、一斉一律指導の難しさの指摘があった。学校としては国や府の指針に沿って対応する旨を返答。5 月からの 5 類変更後は状況を見ながら学校行事を実施することを説明。</p> <p>(2) 学校評価・生徒の自己授業評価アンケート結果</p> <p>学校よりアンケート結果の概要を説明。コロナ禍でのクラブ活動・校内外の職員の研修・ICT を活用した授業などがアンケートに反映されている。また、質問項目にそぐわない部分があることなども課題として説明。</p> <p>委員からは I C T 活用の弊害もあるのではないかと指摘。直接の対面指導でないといけないところは伝えることは難しい。本校に対する印象としては対面に配慮していると言えるのではないかと評価。学校としては ICT の重要性は認めつつも、すべて万能とは言えないので、今後もアナログとデジタルの併用を行い、試行錯誤の中から生徒にとって最良の方策を立てたい旨を返答。</p>
---	--

### 3. 本年度の取り組み内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
中学校	ア、生徒に達成感や充実感を与える工夫された授業・クラブ活動への取り組み	ア、「生徒の授業評価アンケート」等を分析し、中学部会・学年会等で検討し実践に移す。また、部活動では、効果的な指導方法を工夫する。	ア、「生徒の授業評価アンケート」で 85%以上の生徒が充実した授業だと感じられるようにする。	ア、学年、項目内容によって評価の数値に違いがある。教科、学年で分析し改善を目指す。
	イ、学校の安全対策と配信システムの整備。	イ、警察署・消防署等から講師を招き、交通安全・防災訓練、SNS、AED 等についての指導を受け、生徒はもとより教職員の安全意識を向上させる。Classi による保護者への積極的な配信を行う。	イ、防災訓練・交通安全・SNS 等の指導を年 1 回以上実施する。自転車事故について注意を促し、事故件数を 40 件以下にする。緊急時への対応を検証する。	イ、防災訓練、コロナ禍のため、消防署が来校しての指導訓練ではなく、防災訓練 2 分割で実施。交通安全指導は警察が来校して交通課警察官が Zoom で実施。SNS 指導は、KDDI より Zoom で実施。また各 HR で定期的に指導した。

<p>運営</p>	<p>ウ、全教職員の ICT 教育に必要なスキルアップを図る取り組み</p> <p>エ、組織の活性化による学校改革への意欲向上</p> <p>オ、生徒募集定員の確保</p>	<p>ウ、教員がロイロノートや ICT 教材を活用し、対面授業と融合させたハイブリット型授業の研究・実践を行う。</p> <p>エ、教員が「設定目標自己診断」を実施することで、PDCA サイクルによる学校教育への改善意欲を向上させる。</p> <p>オ、公立中学校、塾等を訪問し、学校の魅力と進学実績等を発信し募集定員確保につなげる。 新規エリア（大阪市内東部・奈良大和路線）の開拓</p>	<p>ウ、科会等で情報交換し、お互いの授業の課題点、改善点を話し合う機会を設ける。</p> <p>エ、各教員の設定した目標について、管理職によるヒアリングを年 1 回以上実施し、目的の達成状況を把握し、指導・助言する。</p> <p>オ、入試広報部と教職員の連携により中学、高校とともに、定員を確保する。また、併願受験者 400 人をめざす。</p>	<p>ウ、コロナ関係の出停者へのハイブリット型の授業については、全教員が実施可能なスキルがついた。ロイロノートを活用した授業も急速に進んだ。</p> <p>エ、個別面談を実施し意思疎通を図り、改善のための助言を行い、悩みなどメンタル面についても聞き取りを行った。</p> <p>オ、中学校 45 名、高校 224 名と共に定員を充足できなかった。高校専願者の減少を分析し高校の募集戦略の新たな取り組みを行う</p>
<p>教育</p>	<p>&lt;教科指導&gt;</p> <p>ア、新学習指導要領によるカリキュラムを実施し、適正な観点別評価を行う</p> <p>イ、観点別評価を見据えた教材研究を行い授業、課題の設定を行い、定期考査は評価が反映され問題の作成を行う。</p> <p>ウ、英会話の運用力の向上と、今後の英語教育の進展を踏まえた取り組み</p>	<p>ア、新カリキュラムの実施に伴い起こる新たな課題点を検証し、また、授業と講習との連動が効果的に実施できているか教科で検討・研究する。</p> <p>イ、各教員が学習指導要領を読み込み、外部研修、他校の取り組み等から、情報収集を行い全教員で共有し・研究する。また、教科内での授業の相互参観を行い授業力の向上を図る。</p> <p>ウ、中学・高校で ALT を活用し、英会話の運用力の向上を図る。中学校では英語検定や放課後英語教室を活用して英語の運用力の向</p>	<p>ア、運営委員会で高校新カリキュラムの実施状況、観点別評価について、検討する</p> <p>イ、80%の生徒が主体的・対話的で深い学びだと感じる授業評価を目指す。年度末の評価が適正であるか検証する。</p> <p>ウ、中学での ALT、高校でのベルリッツの授業を通して英会話の運用力向上を図る。また、英語検定や GTEC スコアの向上をめざ</p>	<p>ア、予想通り、観点別評価について、成績の算出、単位の認定について課題があった。再度、教務部を中心に検討を行う</p> <p>イ、観点別評価を反映させた考査問題作成が難しく、教科会で情報交換を進め、成績、評価の公正性が担保できるように努めた</p> <p>ウ、ベルリッツの授業の成果もあり GTEC のスコアも新高校 3 年生では大幅な伸びであった。また、英検等の他の資格検定試験との併用も考えていく。</p>

実践	<p>＜生徒指導＞</p> <p>ア、挨拶運動の推進</p>	<p>上を図る。</p> <p>ア、生徒会活動や部活動を通して生徒たちが自然と挨拶を交わせるようにする。</p>	<p>す。</p> <p>ア、生徒の 9 割以上が挨拶運動に参加していると実感できる環境をつくる。</p>	<p>ア、生徒会とクラブを中心に 5 月末から実施した。マスク着用のため、期待していた効果があまりなかった。</p>
	<p>イ、生徒一人ひとりに寄り添った学級指導</p>	<p>イ、生徒との対話を大切にし、教員と生徒との望ましい人間関係を構築する。</p>	<p>イ、教職員が積極的に声かけをするとともに、生徒の変化を見落とさないよう個人懇談を実施する。</p>	<p>イ、昼休み、放課後などの時間を活用した面談を積極的に実施した。</p>
充実	<p>ウ、情報端末機器の適正な使用のための指導</p>	<p>ウ、スマホ等の使用について、入学時や生徒集会等の機会をとらえて適正使用について指導する。</p>	<p>ウ、生徒を対象に、年 2 回以上の指導と、新入生保護者を対象とした説明会を開催する。</p>	<p>ウ、新入生オリエンテーション、二学期には学校全体で、外部講師を招き、複数回取り組めた。</p>
	<p>エ、新制服導入に伴い、制服の着こなしについての指導</p>	<p>エ、学校に誇りを持って制服を着用するよう指導する。</p>	<p>エ、定期的に風紀検査を実施し、適正な着こなしを指導する。</p>	<p>エ、定期的に風紀検査を実施した。着こなしについても、一定の成果があった。</p>
教	<p>＜進路指導＞</p> <p>ア、新しい入試制度に対応した進路指導。</p>	<p>ア、各大学の入試改革が進む中、生徒一人ひとりの特性や能力等を大切にして、将来を見据えた進路指導を行う。</p>	<p>ア、進路 LHR の指導資料を作成する。生徒・保護者を対象に入試制度や進路状況等について説明会を開催する。大学現役合格率 85%以上を目指す。</p>	<p>ア、コロナ禍の中、説明会の参加者も多く丁寧な進路懇談も行えた。学校推薦型試験は、28 名。大学現役入学率は 86%を達成した。</p>
	<p>イ、学校推薦型選抜等の活用</p>	<p>イ、生徒や保護者からの希望を受け、準備委員会を経て、推薦委員会で選考する。</p>	<p>イ、校内学校推薦型選考委員会を適正に運用し、推薦者を選考する。</p>	<p>イ、校内学校推薦型選考委員会が適性に運用され公正な選考ができた。</p>
	<p>ウ、退学の防止対策</p>	<p>ウ、「入学した生徒は卒業まで」を合い言葉に、保護者と連携し一人ひとりに寄り添った指導の徹底を図る。</p>	<p>ウ、個人懇談を大切にし、生徒との信頼関係を構築する。退学率を 1%未満にする。</p>	<p>ウ、コロナ禍の影響か、高校 1 年生の転学者が非常に多く、その理由も起立性障害などメンタル面に問題を抱える生徒が多くみられ、次年度もメンタル面のケアを重点ポイントにする。</p>
	<p>＜ICT 教育の推進＞</p> <p>ア、ICT 機器を活用した授業実践</p>	<p>ア、教員がロイロノートや ICT 教材を活用し、対面授業</p>	<p>ア、授業の中でロイロノート等を活用できるように</p>	<p>ア、昨年度以上に ICT 機器を使用した授業が飛躍的に増加した。又、</p>

<p>育 実 践 の 充 実</p>	<p>イ、新統合システムの本格的運用。</p> <p>ウ、ICTリテラシーの育成とセキュリティの確保</p> <p>&lt;人権教育&gt; ア、人権意識の醸成</p> <p>イ、人権教育にかかる授業の工夫改善</p> <p>&lt;情操教育&gt; ア、人間としての生き方や在り方を考える道徳教育の研究・実践</p> <p>イ、宗教の時間を通して心豊かな人間の育成</p> <p>&lt;家庭との連携&gt; ア、ホームページの刷新を契機として、魅力ある情報の発信。学校通信・中学通信等の工夫</p>	<p>と融合させたハイブリット型授業の研究・実践を行う。</p> <p>イ、新統合システムの本格的運用に伴い、1年間で不具合の修正改良を行う。</p> <p>ウ、目的に応じてICTを活用できる能力と、セキュリティに対する意識向を図る。</p> <p>ア、「いじめ防止基本方針」に基づき、「いじめ」のない学校づくりに努める。</p> <p>イ、生徒とともに考える学習形態・参加型学習の研究・実践に努める。校外での研修会に参加し、他校の実践に学ぶ。</p> <p>ア、人間としての生き方や在り方を学び、それを自身の生活に活かす</p> <p>イ、他校の実践も参考にしながら指導内容・指導方法について研究を深め、実践につなげる。</p> <p>ア、ホームページの随時更新と学校新聞・中学便り等の定期発行を通して、学校の情報を積極的に発信する。</p>	<p>する。また、双方向の通信ができるよう研修する。</p> <p>イ、全員がシステムを理解しオペレーションを機能的に活用することで、業務の省力化につなげる。</p> <p>ウ、年3回以上の教員研修会を開催するとともに、生徒には、技術科や情報の授業を通して育成する。</p> <p>ア、「いじめゼロ」を目指す。いじめが起らないよう、連携して対応する。</p> <p>イ、資料や指導方法・指導内容について研究・検討するとともに、校外の研修会に10人以上が参加する。</p> <p>ア、道徳・情操教育委員会を学期ごとに開催し、年間計画を樹立するとともに、道徳の時間指導の資料開発に努める。</p> <p>イ、指導内容の充実を図るため宗教教育担当者会議を開催する。宗教に関する校内研修を年1回以上開催する。</p> <p>ア、ホームページに各行事やトピックス等を随時更新して発信する。金光八尾新聞年2回、中学便り・保健室便りなど毎月1回、定期的に発行する。</p>	<p>休校時もオンライン授業やZoomの授業対応もできた。</p> <p>イ、新統合システムも順調に稼働し、修正点や改良点もその都度洗い出し仕事の効率化に寄与できた。</p> <p>ウ、ICT教育推進部を中心に教職員・生徒の意識は高まったが、SNSの功罪を中心にさらに啓発活動を行う。</p> <p>ア、大きな問題事象はなかったが、日々様子、変化を見逃さないきめ細やかな指導を継続して行う。</p> <p>イ、校外の研修は、人権教育推進委員会を中心に参加した。ここ数年入学生に支援を要する生徒が増加している。次年度は発達障害の研修を進め、生徒理解に努める。</p> <p>ア、宗教科と連携を密に組織的な取り組みを年間計画に組み込む。お広前が機能的な役割を果たし、生徒たちの「安らぎの場」となっている。</p> <p>イ、予定通り研修会は実施できた。今後も宗務課と連携をとりながら計画立案を行う。</p> <p>ア、ホームページは、全面改訂し、スマホからも見やすいコンテンツになった。またインスタも始め、保護者への発信は紙ベースとデジタルを併用しハイブリット型の配信を行った。</p> <p>イ、コロナ禍の中、保護者の要望の</p>
--	---	--	---	---

<p>イ、保護者ニーズの把握と適切な対応</p> <p>＜広報・募集活動＞</p> <p>ア、学校の魅力や特色の発信</p> <p>イ、教職員一丸となった広報活動</p>	<p>イ、PTA 役員や学級委員等と連携し、保護者のニーズを把握し、解決に向けて努力する。</p> <p>ア、学校案内・ホームページを活用して魅力や特色を発信する。また、生徒の出身中学校や学習塾等を訪問し、意見の交換をする。</p> <p>イ、入試広報部と教職員が連携し、本校の取り組みや学校の魅力について発信する。</p>	<p>イ、年 1 回以上保護者会を開催し、保護者からのニーズを精査し、学級委員と連携し課題の解決に努める。</p> <p>ア、本校の魅力・特色等発信するとともに、指摘内容等の改善に努めることで、中学校・塾との信頼関係を強固にし、定員の確保につなげる。</p> <p>イ、現場の教員と広報部職員の意見交換を活性化させ、魅力ある参加したくなる募集行事の再編成を行い。受験生や保護者に対して情報発信のあり方を研究する。</p>	<p>吸い上げにむずかしい面もあったが、クラス会での聞き取りやPTA 役員から情報提供をいただいた。</p> <p>ア、中学校・高校共に定員充足できなかった。中学募集について、新しい取り組みとして、小学校への訪問演奏や地域への活動を通して学校の認知度を上げる取り組みを進める。</p> <p>イ、教職員と入試広報部の協力体制をさらに充実させ、新しい広報活動、工夫した学校説明会を様々な角度から再構築していく。</p>
<p>意識改革と資質向上</p> <p>イ、教科会、各部会、学年会等の開催による情報の共有</p> <p>ウ、学校経営への参画意識の醸成、企画力の育成</p>	<p>ア、各教員が「生徒による授業アンケート」を活用し授業の実態を把握する。また、教科会等で調査結果を分析し、各教員が授業の改善に活かす。</p> <p>イ、教科会、部会、学年会を定期的に開催し、情報交換や、受講した研修内容等を報告し、情報を共有する。</p> <p>ウ、教職員が広告塔である事を認識し、授業、クラブ活動、各行事について、教育効果が上がり、魅力的に成るよう検討・研究し、企画力の充実を図る。</p> <p>外部研修等を通して、学校運営への参画意欲の向上</p>	<p>ア、各教員の授業に対する生徒の肯定的評価が80%以上となるようにする。</p> <p>イ、中学部会・各学年会を毎週開催し、教科資料室の設置に伴い教科会・各部会を定例化して、課題について検討、改善を行う。</p> <p>ウ、教員の各行事への改善意欲が90%以上となるようにする。</p> <p>校外での研修会等に延べ30人以上が参加する。</p>	<p>ア、9割強の教員の授業評価は80%以上である。80%未満の教員には授業参観を行い助言・指導していく。</p> <p>イ、学年会は週1回と頻繁に開始している。年間行事の関係から、厳しい面もあるが、部会、科会の回数が増やせるように努める。</p> <p>ウ、コロナ禍の中、行事の中止、変更、延期が余儀なくされたが、各学年団が外部からの情報収集によく努めた。</p>

		を図る。		
学 校 行 事	ア、生徒会の自主活動の推進  イ、部活動の活性化	ア、生徒会役員や各クラブ部員が自主的・自立的に文化祭、挨拶運動、奉仕活動等に参加するよう支援する。  イ、部活動を通して生徒の自主活動を推進させる。	ア、生徒会役員等の提案を大切にし、生徒の自主活動の肯定的評価が80%以上になるようにする。  イ、部活動への入部率が、中学で80%以上、高校で45%以上をめざす。	ア、文化祭が部分開催ではあったが、開催することができ、生徒会役員が活躍する場があった。本校の募集活動にも協力をしてくれ、参加者から好評であった。  イ、コロナ禍の制約の中、顧問、部員が感染症対策をした中、練習を工夫し、よく頑張った